



2839





114  
A



明治

十年經濟急務

第一回

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

夫レ文字ノ用ヲ世上ニ為スヤ其益廣大ナル牧  
舉シ難シト雖レ之ヲ約スルニ面語ノ代用記事  
証ヲ傳フルノ二用ナリ

第一面語ノ代用トハ今此ニ隔地ノ人ト語シ  
ト思フニ道路甚ク遠クシテ其便ヲ得ス故ニ  
心意ヲ筆札ニ託シ其事ヲ通スルナリ  
第二記事証ヲ傳フルトハ人アリ互ニ一以ノ  
事ヲ期約シ之ヲ他日ニ鑑セント欲スルモ言



語ハ素ヨリ無形ノ物ニシテ後日ニ至リ視ル  
可キ確証ナシ故ニ文字ヲ假リテ其事ヲ記載  
シ之ヲ他日ニ証ス

是レ人間交際上ニ於テ實ニ文字ハ必用ナリト  
スル所以ナリ  
我輩既ニ文字ノ必用ナルヲ知ル試ニ問フ文  
字ハ寫シ易キヲ好ムヤ又夕寫シ難キヲ好ムヤ  
ト我人皆寫シ易キヲ好マン蓋シ時間ヲ省キ簡  
易ノ事ヲ辭スルヲ貴ム故ナリ

我日本坑ニ用ユルトコロ、文字ハ極ソテ繁畫ニ  
シテ容易ニ寫シ難ク如ルニ字數ノ多キヲ筆テ  
算ガタシ之ヲ習熟スル為メ貴重ノ日月ヲ要シ  
其辛勞モ亦夕甚ク多シ若シ今此ノ如キ繁畫ノ  
文字ヲ瘞シ西洋諸國ニ用ルニ十六字ニ依テ國  
語ヲ綴ラハ容易簡便大ニ勞ヲ省キ三才ノ童兒  
モ能ク之ヲ寫シ得可シ磨

墨

紙

筆

ノ如キ点畫多キモ綴字ニ寫セハ筆易ナリ然レ  
凡是ヲ施スヤ一定ノ規則ナキ能ハズ其規則夕  
ルヤ難キニ非ス先ヅ初メ我國音ニ達シ西洋語



法ニ粗々渉レル者四五名ヲ擇ビ之レニ任シ横  
文モテ國語ヲ綴ラシム假名ヅカイ乃チ所謂ル  
テニヲハヲ能々訂シ我國語文法書ナル物ヲ編  
成セシメテ次ニ字書ノ如キヲ編集セシメバ二三  
年ニシテ其功自奏セシ而後普ク之ヲ全國ニ施  
シ大小學校ニ於テ後進生徒ニ教ヘ亦夕布達日  
誌ノ類モ綴字ヲ交ヘ漸次衆目ニ馴シメバ拾五  
年ノ後ニ至リ横文全國ニ洽ネク行ルニ至ラ  
ニ是レ僅ニ二十六字ノ音ヲ諳知シ母子両音ノ  
綴リテ覺ル迄ニシテ其單易ナルヲ我イロハ四

十七字ヲ覺ルニ同シ此際或ハ先進ノ者ノ為リ  
ニ回來ノ文字ヲ全ク廢スルヲ能ハサレハ旧新  
横文ヲ新文  
字ト云フ  
交ヘ用ヒシメテ可ナリ而シテ現今  
幼少ノ見ノ未ダ文字ヲ知サル者ニハ勉メテ綴  
字ノ新文字ヲ教ヘナバ此兒等他日成長ノ時ハ人  
民全ク新字ヲ用ヒントス是レ甚ノ難シトセサ  
所ナリ  
夫レ事美ナリト云ヒ善ナリト云ヒモ時トシテ或ハ  
之ヲ行フヲ能ハザルモノアリ蓋シ時機ニ會サ  
ル乎材具ニ乏キ乎或ハ費用ノ支ヘ能ハザル等



ノ如キヲアルニ由ル此三ノモノ今我日本一モ  
欠事ナシ願クハ速ニ綴字用法ノ規則ヲ立テ我  
輩子弟ヲシテ勞ヲ省キ貴重ノ時間ヲ費サス簡  
易寫字ノ道ヲ教シテ是ニ我輩兄弟三千万人  
ノ延命省勞ノ一トナラシムル  
人アリ或ハ云ニ曰末馴習ノ文字ヲ一變スル  
ハ一朝夕ニ之ヲ行ヒ難シ強テ之ヲナセバ弊  
害ヲ醸シ不便ヲ生シ大ニ混雜ノ基ナリ如カ  
ク暫ク時機ヲ遷シ洋学一層進ムヲ待テ之ヲ  
施ス可シト我輩云ク然ラズ是レハ此レ因循

事ニ寄セテ時機ヲ失フナリ如何トナレバ人  
材費用一モ欠クテ無シ亦己ニ綴字ノ便易ヲ  
知ル何ソ後日ヲ待ニ一日ヲ延セハ則ケ日本  
國三千万日ヲ失フナリ其損實ニ之ヨリ大ナ  
ルハ無シ  
皇國既ニ大中小ノ校ヲ設テ文部教則ヲ立テ子  
弟之ヲ学ビ師父之ヲ教ユト金モ到底其勞苦ニ  
應ス可キ成果ヲ受ルテ難シ  
譬ハ一村アリ童兒ヲ校ニ行カシム師能ク教  
ヘ見能ク学ビ他ヨリ間然スルナシト雖モ其



兎輩ノ成業結果スルヤ必ス七八年ヲ要スヘ  
シ是レ我人幼穉ノ時ヲ以テ推シ図ルヘシ今  
ヤ歐洲小学校ニ於テハ我日本八箇年ノ学ハ  
五年ニシテ遂クル可シ是レ畢竟文字ノ学ビ  
易キニヨルナリ  
加フルニ我國子弟ハ傍ラ英佛ノ語ヲ学ビ其書  
ヲ讀シム然ルニ是レ皆他邦異境ノ事ニテ言語  
文法已ニ我國ニ異リ故ニ其書ヲ讀ムト雖其  
意ヲ解スル實ニ容易ニ非ス少クモ五箇年ヲ要  
ス可シ倘シ今我國語ノ綴字ヲ用ユルニ至ラハ

洋学ニ入ルモ之ヲ難トセス豈兩便ト云サルヲ  
得ニヤ  
今我小学校ニ於テ教ル所ノ地理窮理ノ初步等  
悉ク洋籍ニ基サルハナシ其書タルヤ或ハ漢文  
或ハ近世翻譯依ノ文ヲ以テシ簡易微意ヲ主ト  
ス●ト雖モ然レトモ往々不適當ノ譯ヲ下シ又  
文字畫繁多ニシテ村見牧童ノ迷テ了讀シ能ハ  
サルアリ縱令ハ  
維ウイ亞ア拿ナ 龍リウ 島トウ 巴パリ 里リス ノ如キ  
維也納 倫敦 巴黎斯 トモ譯



レ何レヲ以テ適當ノ字トス可キ乎到底西様共  
ニ知サルヲ得ス此ノ二都府ノ名ハ三才ノ見モ  
能ク之ヲ聞知セシトニシテスラ此ノ如シ其他  
尚ホ牧擧ニ暇有ラス余カ迷ル如ク横文綴字ヲ  
用ユルナラバ原又モテ之ヲ記シ誤解惑雜ノ憂  
ナカル可シ是皆大ニ教化ニ益アリテ學者ニ害  
ナシ且今世ノ文字ハ結局西洋諸國ノ文明ニ並  
進スルヲ難シ惟願クハ廟堂有志ノ諸公速ニ斯  
ニ着手アラントヲ

## 第二回

前篇已ニ文字變換ノ至要ナルトヲ述タリ今復  
夕時ヲ縮ソ教ヲ充分ニスルノ必要ヲ説シ  
抑余輩幼年ノ時ヲ回想スルニ四五才ニシテ初  
ラ學ニ就キ童子經實語經子寶等ノ書ヲ讀ミ次  
ニ孝經大學所謂ル四書ナルモノヲ覽ス亦次ニ  
五經ノ素讀ナド、日々ニ幾回反覆スルヲ知ラ  
今日之ヲ想ヘバ實ニ勉テリト云可シ然ト虫  
氏唯父師ノ命ニ從ヒ口之ヲ誦スレノミニシテ  
更ニ其意ヲ解スルニ非ス是世人ノ皆同ク經過  
シ末リシ所ナリ其間穎才ナル者モ兩三年ヲ歷



ザレバ漸々文意ヲ解スルニ至ラズ既ニ素讀シ  
テ教卷ヲ卒リ續テ勉學眼ヲ觸ル、ノ書粗其大  
意ヲ解スルニ至ルヤ亦タ若子ノ多月ヲ要ス之  
ニ通算スルニ凡學問十箇年ヲ經ザレバ普通ノ  
用ヲ辨ズルニ足ラズ然ルトキハ是已ニ余輩生  
命ノ六分一尋常人命六十分ヲ費ヤセリ其間短シト  
云フ可ラズ然リ而シテ今日之ヲ追思スレバ文  
意錯雜無益ノ書ニ勞セシ丁勦カラズ乃チ詩書  
易禮記ノ如キモノナリ是等ハ實ニ一層高尚ノ  
書ニテ一般童子ニ教フ可キ書ニ非ズ斯ノ如キ

教方ヲ草メ讀ニ隨テ解ス可キノ組立ニナサバ  
十年ノ事業ハ必ス五年ニシテ卒リ遂ニ其益大  
ナルニ至ラン譬ハ

父母在則不遠遊

母ノ在リテ遠クハ遊ムルコト

*Do the same over Memor Tokon Asad Nakase*

ノ如ク教戒トナル可キ語ヲ廣ク諸書ヨリ採萃  
シテ之ヲ編集シ之ヲ和文平常ノ語ニ轉シ以テ  
之ヲ初學ノ者ニ教ヘバ一言一句讀ムニ隨テ了  
解シ修身ノ基トナリ且ツ時間ヲ縮メ其教行ハ  
レシ



夫レ教ハ簡易ニシテ能ク行ハル可キヲ貴ブヌ  
夕教ハ一人ノ為ニ非ズ衆人能ク遵守シテ然ル  
後ニ教ノ貴キヲ顯スナレバ何程聖人君子ノ語  
ト虫氏意味深長衆人ノ解ス可ラザルハ其用ナ  
ク其益尠ナシ故ニ余カ論ズル如クセバ童子女  
児モ之ヲ解シ愚夫愚婦モ之ヲ悟リ一日讀ノバ  
一日ノ益アリ如何ナル貧人子弟モ容易ク之ヲ  
学ビ得テ竟ニ修身ノ基ヲ開シ

我日本外國ト交際ノ道ヲ開クヨリ日ヲ追テ  
漢學衰ヘ洋學行ハレ近時甚シキハ初學ヨリ

シテ英佛ノ書ヲ教ユルニ至レリ之ヲ推テ考  
レバ數年ノ後ハ漢學全ク贅物ニ屬セントス  
然ルトキハ何ヲ以テカ修身ノ道ヲ教シ人若  
シ五常ノ道ヲ知ラザレバ禽獸ニ近シ我政府  
早ク羞耻ノ教ヲ立テ之ニ備ヘ人々ニ修身ノ  
道ヲ知ラシメザレバ一國ノ元氣忽チ衰ヘ開  
化ハ却テ野蠻ノ風ニ墮ントス國ノ元氣已ニ  
凋衰スレバ彼ノ獨立ヲ保ント欲スト虫ドモ  
豈得可ケンヤ故ニ方今教化ニカヲ用エル人  
ハ宜シク大ニ此ニ注意ス可キナリ



我神道佛教ノ如キ互ニ偏スル所多クシテ今  
時知識ノ漸々進ミタル人民ニ至適スルノ教  
ト言難シ且其語其意ハ杳渺トシテ兒童ノ解  
シ得サル者多キ故ニ亦タ以テ方今ノ教トス  
ルニ足ス願クハ人事的実ノ教ヲ立テ簡易以  
テ後生ニ施シ事ヲ此レ侘ナシ神儒ヤ佛ヤ其  
他古人ノ善言教化ニ切ナル者ヲ集テ一卷ト  
シ我國平常ノ語法ニ譯シ以テ廣ク人民ニ教  
ルニアリ此法現今人皆之ヲ行フ能ハザルニ  
似タレドモ到底西洋學ヲ專ラニスルハ成丈

ケ之ヲ減少シ幼学生徒ノ徒勞ヲ省キ我國一  
種普通ノ假名交リニテ所謂ル翻譯体ナル  
算易ノ文法ヲ誨ヘ精々繁畫新奇ノ文字ヲ遺  
ハヌ様ニシテ童男女子ト虫モ容易ニ了解ス  
可キモノヲ設ケザルヲ得ズ

### 第三回

前ニ文字變換教育ヲ簡易ニシテ時間ヲ省ク事  
ヲ述タリ今復タ時間ヲ省クノ至要ナルヲ詳説  
セン  
夫レ一國ノ富ハ人民ニ因リ人民ノ富ハ一人ノ



働キニ生スルハ我人皆ナ知ル所ナリ働トハ成  
果ヲ顯シ功績ヲ後ニ傳ヘ周ク世人ヲ利スルヲ  
以テ貴トスルナリ我國人ノ如キハ働ノ成果ヲ  
後ニ傳ル事甚ダ尠シ其故ハ前ニ述タル如ク文  
字教育簡易ノ法立テ衆人子弟夫レガ為ニ最モ  
貴重ナルノ時ヲ費ス事多キニ由レリ

譬ハ文學農業工藝ノ如キ中古ヨリ今ニ至ル  
マテ愕目ス可キ程ノ進歩ヲ顯サス國家ノ富  
モ亦タ之ニ同シ維新以來内國鐵道電線ノ設  
アリテ一面目ヲ改ムルト雖モ是皆從來所有

ノ財ヲ以テ造ルカ或ハ外國ニ負債シテ之ヲ  
成スニ過ギサルナリ故ニ未ダ我國人民ノ力  
ヨリシテ造タルモノト言難シ

西洋諸國ノ如キ人々其働キノ結果ヲ後ニ傳ル  
事多シ

今ノ十年ハ前ノ十年ニ勝リ文ト云ヒ農工ト  
云ヒ發明奏功著シク有リテ世人ヲ利スル  
實ニ多シ

我人民ハ適々蓄財シテ富ヲ子孫ニ傳ル者アル  
モ皆是レ機會ニ乘スル<sup>カ</sup>或ハ一身ノ難苦ヲ厭



ハズ節儉ニ由リ得ル所ニシテ決シテ新ニ生夕  
ル財ニ非ス。畢竟彼ノ財ヲ此ニ移ス。迨ニシテ初  
ヨリ我日本地上ニ存在セシモノナリ。然レハ則  
チ此等ノ人ハ何千萬人有シ。モ一國ノ富ヲ興ス  
ニ足ラス。

國ノ富ヲ興ストハ如何ナル事ヲ云フ乎。譬ハ  
十人ノ業ヲ一人シテ為得ルコトヲ發明スル  
カ。或ハ百日ノ働ヲ一日ニ成シ。卒ル事ヲ得セ  
シムル等ノ如キ時。既ヲ省キ。其餘間ヲ以テ更  
ニ他ノ業ニ就キ。別ニ一ノ働ヲナシ得ル如キ

ヲ以テ真ニ富ヲ興ス者ト云フ可シ。是マテ一  
圓ノ費ヲ拂テ一圓又ケノ價ヲ働シテ。今ニ圓  
ノ價ヲ働キ出スヲ云フナリ。

是ニ因テ推計ルニ。現在日本人民ハ。歐洲人民ノ  
働ニ比較スレハ。蓋シ其半ニモ至ラサルモノ、  
如シ如何ニトナレハ。英ノ機械師ハ。他國ニ往ク  
モ。英ノ機械師タリ。佛ノ時計司ハ。亦夕他國マテ  
佛ノ時計師タルヲ保シ。何レモ獨立活計スルノ  
人ナリ。我國人農者ヲ除クノ外ハ。他國ニ移リ自  
己ノ職藝ヲ以テ獨立活計ヲ営ム事甚ク難シ。是



レ我日本歐洲諸國ト並立進歩シ能ハサル所以  
ナリ  
然レハ則之ヲ如何セバ可ナランヤ是他ナシ前  
ニ述タル如ク文字ヲ簡ニシ教育ヲ充分ニシテ  
人民ニ時間ヲ得セシムルヲ多ク各人其自己ノ  
業ニ出精ス可キ様ニ之ヲ導クニ在リ

余輩今ノ文字今ノ教法ヲ以テ敢テ富國ニ妨  
アルトスルニ非ズシテ進歩ニ遲速ヲ生スル  
ヲ速ルナリ而シテ其遲速ノ違ヒ最モ大ナリ  
試ニ一二ノ證ヲ上シニ方今我國海陸軍ヨリ

文部工部其他ニ至ルマデ皆西洋風ニ由ラサ  
ルハナシ形勢已ニ此ノ如ク限アルノ財ヲ以  
テ限ナキノ需ニ應スルハ甚ダ難シ何ゾ一日  
モ早ク人民ヲ働キニ就カシムルノ時間ヲ充  
分ニ與ヘ富國進歩ヲ急ガサルヤ

#### 第四回

真ナル哉國ノ富强ハ人民ノ働キニ因ルト西洋  
諸國貿易ノ道盛ニ人民利益ヲ興ス感スルニ尚  
ホ餘リアリ譬ハ佛國ノ絹布ハ英國ニ送り瑞西  
ノ時計ハ米國ニ送り而シテ唯之ヲ彼ニ賣ルノ



ニ非ズシテ亦夕彼ヨリ此ニ輸ス乃夕彼ニ多  
ク我ニ募キヲ買テ以テ自國ニ輸ス佛ノ縮ハ英  
ノ鍍ニ交ヘ  
瑞ノ時計ハ米ノ木綿ニ易  
テ互ノ利益ヲ計ルノ類  
甲ノ餘リヲ以テ乙ノ  
不足ヲ補ヒ功用年ニ多ク融通月ニ廣シ故ニ物  
品需ニ應シテ成リ成ルニ從テ賣ル其職業倍々  
盛ニシテ仕事ノ日々ニ大ナル所以ナリ  
今我日本人民ガ工業ニ於ケルノ形況ヲ視ルニ  
一日米五合ヲ要スル者ハ米五合大ケノ働キヲ  
成シ了ラバ自ラ安シテ敢テ其餘ヲ需ソサルニ  
似タリ抑其原因如何ヲ尋ルニ蓋シテ仕事ノ勤キ

ニ因ル仕事ノ勤キハ物品ノ賣捌ケ遅キニ由ル  
ナリ  
譬々此ニ漁人アリ一日海ニ漁シテ数千ノ魚  
ヲ得ンニ倘シ其獲ル所悉ク之ヲ賣捌ク事能  
ハサレバ何程ノ大漁モ其價ヲ得スシテ竟ニ  
不獵ニ異ナルナシ  
又一例ヲ舉ン西京西陣ノ織匠ガ一年五千反  
ノ絹ヲ織リ上ルト見做シ今若シ外ヨリ別ニ  
一萬反ノ注文アラバ必ズ織手ヲ増加シ以テ  
仕事ヲ催促スルナラン然ラバ則チ仕事ノ遅



キハ注文ノ寡キニ田ル注文ノ寡キハ賣捌キノ遅キニ由ルナリ  
然ラバ仕事ヲ多クシテ物品ヲ速ニ賣捌クハ  
之ヲ如何セバ可ナラン乎  
仕事ヲ多クシ物品ヲ速ニ賣捌クハ各州府縣ニ  
於テ賣買市場ヲ設ケ農工商ヲシテ貿易ノ要旨  
ヲ能々承知シ之ヲ勉勵セシムルニ在リ而シテ  
市場ヲ開クノ方法ハ現在三田育種場中第四大  
區ニ取設タル主意ニ基キ人民等ヲシテ各自ニ  
自由ノ便易アラシムル事ヲ要トス  
譬ハ彼ノ屠牛ヲ賣買スル者ノ如キ維新以前

ハ人民肉食スル者稀ニシテ縱令數頭ノ牛肉  
タリトモ殆ンド之ヲ賣捌クハ難シ然ルニ目  
今衆人肉ヲ嗜食スルニ至リ毎日大牛數十ヲ  
屠ルニ尚其餘肉アルヲ見ス此レ是レヲ催促  
スルモノアリテ人民其益アルヲ知レバナ  
リ

第五回

凡ソ世上ノ物産ヲ興サシムル事モ皆牛店ト同  
一理ニシテ之ヲ催促セザレバ之ヲ興ス事能ハ  
ズ



故ニ農工ヲ勸メ通商ノ道ヲ開カントスレバ先  
ツ各縣ゴトニ巨商ノ人望アル者ヲシテ其地ノ  
物<sup>産</sup>集ヲ取集メ又夕賣捌ク事ヲ得セシムル一ツ  
ノ問屋ヲ組立テシム可シ試ニ今日世上ノ景況  
ヲ顧レバ明治維新ノ以前ト百事變化シ人民苦  
役ト御用金トノ患ナク谷々己カ權利ヲ所有シ  
益々其作業ニ出精ス可キ筈ナルニ之ヲ十年前  
ニ比較スレバ未ダ進歩ノ驚ク可キ者無クシテ  
却テ或ハ退歩シタル者アルハ何ゾヤ蓋シ形勢  
己ニ以前ニ相違シ之ヲ勸奨スルノ道モ亦夕絶

ヘタル所アレバナリ

何ヲカ勸奨スルノ道絶ヘタリト云フニ古昔  
ハ國制封建ニシテ幕府アリ大名士侍アリ為  
替坐掛屋等アリテ金銀融通意ノ如ク貸附貸  
下ケナドアリテ人民互ニ其資本ニ乏シカラ  
ズ各業其働キヲ自由ニスルヲ得タリ今ハ則  
チ然ラズ縱令各地ニ銀行アルモ尚ホ充分ナ  
ルニ非ズ加之人々疑懼シテ容易ク之ヲ貸附  
ズ融通日々ニ塞ルニ從ヒ又夕各業ヲ盛ニニ  
スル能ハズ之ヲ如何セバ可ナランヤ



是レ各縣ニ物産ノ大問屋ヲ設ケ貸附金ヲ自由  
ニスルニ在リ

余曾テ之ヲ他人ニ聞ケリ數年前各州縣ニ會  
社ノ設ケアリテ物産ヲ集メ貸金積等ノ法ヲ  
定メ竟ニハ海外諸國へ輸出シテ互易セント  
シタリ然レドモ數月ナラズシテ社中ハ離散  
シ會社忽チ瓦解セリト余以為ク決シテ然ル  
ノ理ナシ是レ方法ノ宜シカラザルハ勿論ニ  
シテ始ヨリ當ニ外面ヲ盛大ニシ内實會社ノ  
目途ヲ取違ヘタルニ過ギズ此事別ニ方法ア

リテ之ヲ保護シ得ルヘキナリ

國內幾所ノ大問屋ヲ設ケ農工各業ヲ盛大ニス  
ル事ハ元ヨリ人民社會ノ義務ニシテ政府ハ之  
ヲ保護スルニ過ギズ故ニ人民社會ノ長タル者  
ハ能ク各業ノ情形ヲ察シ問屋ノ方法規則ヲ定  
メ其餘ノ社會ハ自己ノ家業ヲ勉強シテ懇々問  
屋ト相謀リ任事ノ成就セシ者ハ之ヲ問屋ニ送  
リ問屋ハ之ヲ賣捌キ之ニ貸金スルノ差支ナク  
退々餘物ヲ註文スル丁ヲ専ラニ勉メバ各業手  
ヲ束ヌルノ愁ナクシテ國產漸ク繁殖スルニ至



ラン

或人云ハシ會社ヲ設ケ物産ヲ盛ニスルハ元  
ヨリ難キトニ非ズ然レドモ之ヲ賣捌キ難キ  
ヲ奈何セント余ノ云ク内國既ニ限り有レバ  
之ヲ賣捌クニ便リナシ之ヲ海外ニ輸出スル  
ニ如ズ

方今五大洲中ノ貿易盛大ニシテ各國人民ノ往  
來營業スル者極シテ多シ然レドモ我國人民ノ  
如キ未ダ海外諸國ニ在テ開店商業ヲ營ム者ヲ  
聞ズ縱令間々之レ有ルモ十數戸ニ過ギズ畢竟

利ノ有ル所ヲ知サルニ非ズシテ利ヲ求メザル  
ノ致ス所ナリ國內數所ノ開港場ニ來集セル各  
國ノ高賈ハ互ニ自國ノ産物ヲ輸入シ之ヲ内國  
ニ賣リ又タ彼ノ國ニ價アル我國産ヲ持帰り幾  
許ノ利潤ヲ得ルトハ元ヨリ我人皆知ル所ナリ  
然レドモ結局我開港場ニ住居スル内外ノ商賈  
ハ我國産ノ融通ニ因リテ營業スルモノナリ倘  
シモ海外高賈ト貿易セザルトキハ此五港ニ於  
テ賣捌ク可キノ物ヲ造リ出ス事ナシ

我國ニ在ル貿易開港場ハ僅ニ數所止ルヲ



以テ其物品ヲ催促スルノ實ニ尠シ今此レヲ  
海外ニ輸出シ支店等ヲ開カンニハ一層之ヲ  
賣捌ク可キ催促アラシ然ラバ我國農工仕事  
ノ多キヲ覺工手傳人ヲ雇フテ之ヲ造ル可シ  
庶幾クバ物産増殖シテ空拳開ヲ守ルノ人尠  
カラシ

貿易賣買スルノ地ハ五大洲中其地極テ多シ  
ト云モ其盛大ナルハ歐羅巴ニ如クハナシ歐  
羅巴ノ中其地又々多ケレドモ其繁昌奢麗ナ  
ルハ佛ノ巴里ニ如クハナシ故ニ最初ハ巴里

府ニ於テ我國產物問屋ノ支店ヲ開ク可シ

第六回

凡衣食住ニ用ル所ノ諸產物ハ概テ制限アル  
ガ如ク其餘ヲ造リ出ストモ又々之ヲ買フ者無  
キニ似タリ然レドモ人情ハ新奇ト便益トヲ喜  
ビ或ハ華麗ト甘美トヲ愛スル故ニ時トシテハ  
流行ト唱ヘ舊ヲ瘞シテ新ニ遷ルノ多シ一人之  
ヲ唱フレバ萬人即チ向フ是天下各州ノ皆然ル  
所ナリ

佛蘭西巴里府ハ天下冠絶ノ地ニシテ西洋諸州



●ノ人モ競テ其地ニ遊ブヲ喜ビ飲食衣服器用  
ノ華美ナル亦夕<sup>争</sup>テ之ヲ学ブニ至ル是ヲ以テ世  
上ノ流行物ハ之ヲ巴里府ニ出ス者多シ然レド  
モ一千四百年ニ至リ工夫モ殆ンド盡タタル如  
ク流行再ビ以前ニ復セリト故ニ多分ノ物品ヲ  
製シ之ヲ速ニ賣捌ク事ハ能ク流行ノモノヲ知  
ルニ在リ人或ハ流行タルヲ知ガルモ工商其便  
利ト良善トヲ考ヘ之ヲ流行セシメザル可ラス  
若シ流行ニ合シ真ニ便益ナルモノナラバ制限  
ノ外ニ之ヲ賣捌クヲ能ハサルヲ得ンヤ

余聞ク世界ノ物品上ニ高尚雅味ヲ備タルハ亞  
細亞洲ニ如クハナシ亞細亞洲中我カ日本ヲ第一  
トスト然ルニ近來我國產物往々價格ヲ墮シタ  
ルハ實ニ仕事ノ以前ニ劣リタルニ因レリ是レ  
我國ノ職工ヲシテ耻ヲ海外ニ歸スノミナラス  
却テ國產輸出ノ道ヲ塞ケリ豈殘念ノ至リナラ  
ズヤ今ヨリ一層勉勵シテ高尚雅味ノ持前ヲ瑳  
キ益々佳良ノ工夫ヲ運ラス可ク決シテ西洋仕  
入ノ物ヲ模仿シ粗惡ノ器用ヲ製造シ突テ他方  
ニ招ク事勿レ



譬ハ英ト佛トハ海上僅ニ十一時間ニシテ往  
來ス可シ而シテ兩地ニ製スル者ハ衣帽凡局  
ニ至ルマデ皆同物ヲ製スレドモ衣帽ハ之ヲ  
佛ニ取り凡局ハ之ヲ英ニ買フ是レ其持前ナ  
ル技藝ニ精出シ之ヲ善良スル所アルニ因レ  
リ我日本モ亦夕同様ニシテ遠方諸國ヨリ求  
ムル物品ナキニ非サルナリ

今日ノ急務ハ海外各國ヨリシテ高價ノ機械ヲ  
買入レ物品ヲ瞬間ニ作り出スヨリモ人々其力  
ヲ勞シテ之ヲ製造スルニ如ス如何トナレバ政

體維新ヨリ以來農工其業ヲ失フ者極メテ多ク  
加之從來士族ト唱フル者ハ往々祖傳ノ秩禄ニ  
離レ遊手空閑以テ今日ニ至レリ此等ノ子弟ヲ  
勸誘シテ之レニ工藝各種ノ業ヲ學バシメバ以  
テ國家ノ物産ヲ興起シ且以テ徒食ノ虞ナキヲ  
保セン然ル後ニ物産益々増加シ仕事ノ追々忙  
シキニ從ヒ漸々機械ヲ買入ル、カ或ハ之ヲ發  
明セシトテ要スレドモ思フニ今ヨリ五箇年間  
ヲ過ルニ非ザレバ蓋シ其斯ノ如キノ盛大ニハ  
至ラザランカ



第七回

是迄テ海外諸國ニ輸出シタル産物ハ概ネ生糸  
蚕卵紙或ハ僅々茶葉陶漆銅器其他ノ数品アル  
ヲ知ル然レドモ是レヲ内國最モ佳良ノ産物ト  
シテ是ヨリ外ニ輸出スル者無キガ如シ凡ソ輸  
出ノ物産ニ二ノ差別アリテ其日用便利ノ為メ  
ニ輸出スルアリ華麗珍異ノ為メニ輸出スルア  
リ華麗珍異ノモノハ一時利益ヲ多分ニ得ル者  
アレドモ永久之ヲ相續スル事ヲ得ズ日用便利  
ノ品ハ之ニ異ナリ年々歳々之ヲ増殖シテ彼我

ノ便利ヲ相助テ永久國家ノ富饒ヲ保ツ可シ  
凡ソ内國産ニシテ他ニ賣出ス可キ品物アルモ  
外人其功用ヲ知ラスシテ之ヲ求メサルモノ多  
シ白蠟紙類織物用材竹木烟草敷物類藍海草類  
醬油茵葷道明寺寒天素麵魚類油種類菓物糯米  
其他ノ各産ハ莫ニ我國至良ノ産物ナレバ彼ノ  
各支店ニ於テ之ヲ賣捌ケバ後末果シテ生糸其  
他ノ利益ニ勝ル丁ヲ得可シ  
如何ノ機會ニ於テ之ヲ賣リ出ス可キヤ之ヲ賣  
出ス事ハ明年佛國巴里府ノ大博覽會ニテ之ヲ



輸出セシムルノ方法取立テ方ニ在リ

余以為ク產物ニ因テ賣捌ケノ道生ズルニハ  
非ズシテ產物人ニ因テ賣捌クルノ道アルナ  
リ譬ハ衆人生糸ヲ厭ヒシ時ハ是レヲ立派ノ  
反物ニ織リ成シ流行ニ因テ之ヲ賣捌ケバ人  
亦夕喜テ争ヒ買ハシ是レ其人ニ因リテ賣捌  
ク可キ所以ナリ

巴里府ノ博覽會場ニ於テ我國產ノ功用良善ナ  
ルヲ知ラシムル事ノ仕方ハ明年之ヲ彼ノ地ニ  
実施シ之ヲ廣ムルニ今其詳細ヲ此ニ贅セズ

然レドモ到底服食器用ノ便利ヲ盡シ之ヲ考究  
シテ日用必需ニ備フ可キモノヲ製造スルニ在  
リ  
以上ニ詳述シタル如ク物產ヲ増殖スルノ多少  
遲速ハ元ト人民教育上ノ遲速ニ關シ物品賣捌  
ケノ多少遲速ハ人民之ヲ催促セザルヨリシテ  
起リ之ヲ催促スルハ結局我内國ニ物產問屋ノ  
設ケ無キニ基クヲ以テ真ニ我國產ヲ興起シ富  
強ヲ圖ラント欲スル者ハ速ニ之ヲ各所ニ取立テ  
是レガ支店ヲ開キ奮勵協力シテ以テ國光ヲ海



外萬國ニ普及セシメン事ヲ希フ



